

維持血液透析患者の足病変における危険因子とチェック間隔の検討

第 68 回 大阪透析研究会

林 彩子・戸田和美・桜井美紀・我那覇志真子・松本 愛・岡本真由美・逸見加代・丸山禎之・和田 茂・佐々木敏作(佐々木内科クリニック 腎センター)

【目的】血液透析患者のフットチェックにおいて、ハイリスク群の危険因子とチェック間隔の検討を行なった。

【方法】危険因子を従来の臨床所見による分類群と TBI(足趾/上腕血圧比)による分類群とに分けて、9ヶ月間フォローした。

【結果】TBI のみによる分類でも従来の臨床所見による分類でもハイリスク群では、ほぼ同様足病変の発生が認められた。しかし、多変量解析では足病変の発生は ASO の臨床分類と最も関連が強かった。ハイリスク群以外ではフットチェックの間隔と病変発見には関連が認められなかった。

【結論】TBI 単独でもハイリスク群を規定することが可能と考えられたが、チェック間隔は臨床所見や検査値以外の要素も含めて、患者個別に対応することが望ましいと考えられた。